

# 2015年度グリーンアジア国際セミナー International Forum for Green Asia 2015

九州大学グリーンアジア国際リーダー教育センター准教授

古野 裕史

11月27日(金)に筑紫キャンパスの総合研究棟(C-Cube)筑紫ホールにおいてグリーンアジア国際戦略プログラム(GAプログラム)の国際セミナーを開催した。昨年までは総理工セミナー(総合理工学府主催)との合同セミナーとして1日半の日程で実施していたが、本年はGAプログラム単独のセミナーとして1日のスケジュールで実施した。

午後中はGAプログラムの海外コア連携大学より3名の先生に招待講演をお願いした。シンガポール国立大学のKyaw Thu先生には、気体吸着システムの基本的な概念とそれらの工業的な利用について解説いただいた。マヒドン大学(タイ)のTaweetchai Amornsakchai先生には、天然由来の高分子の資源化について、パイナップル生産の際に出る廃棄物の再利用を例に紹介していただいた。最後にバンドン工科大学(インドネシア)のRudy Sayoga Gautama先生に、酸性鉱山の排水が引き起こす問題と、それらをいかに解決するかなどについて講演いただいた。本会が資源・環境等の諸問題に関して幅広い知識を得、議論することを目的の一つとしていたため、各先生には専門分野に留まらず、実社会との関係や影響、実用性なども合わせて解説・説明いただいた。

午後からはポスターセッションと学生セッションを実施した。ポスターセッションではGAプログラムの一貫性博士課程3、4年生(博士後期課程1、2年生)が博士論文研究として実施してきた成果について発表した。発表件数は20件と多くはなかったものの、90分という限られた時間の中で活発な質疑応答がなされた。

その後の学生セッションでは、GAプログラムコース生が6つのグループに分かれて選定されたテーマについて議論し、その結果をグループ代表者がまとめて口頭発表した。グループ毎のテーマは3件の招待講演の内容と関連のあるものとしたため、発表後の質疑応答では講演者の先生から貴重なアドバイスをいただいた。なおポスター発表と学生セッションは「国際演習B」の一部として実施され、一貫性博士課程4年生(博士後期課程2年生)6名が学生セッションのグループリーダーとして事前のテーマの選定からメンバーのグループ分け、当日のディスカッションの進行、発表の際の司会までを行った。

本セミナーは国内外から113名の参加者があり、盛会のうちに終わることができた。来年度はセッションを企画、準備、運営する一貫性博士課程4年生(博士後期課程2年生)の人数が今年度と比べて大幅に増えるため、これを踏まえた上でより有益な会となるようさらなる改善をおこなっていききたい。

